



— 安行の名所 (その十) —

安行出羽緑道(ときめきランド)

《川口市大字安行出羽》

幸福川沿いにある緑道で、ときめきランドの愛称で親しまれている。安行出羽公園から安行中道北公園まで続いている。数多くの植物が植えられており、散歩道として、近隣の住民に愛されている。

興禪院ふるさと森のケヤキ

（川口市安行1228）

埼玉県の木はケヤキ。公園、街路、寺社の境内、屋敷などに植えられている。埼玉県の住民には最も身近な樹木である。古くは武藏野の雑木林の代表的樹木であった。

雑木林は、一昔前まで県内のどこにでもあった。それは、農家の生活と密接に結びついており、関東ローム層で覆われる土地の栄養度を高めるため雑木林の落ち葉を堆肥として利用していた。また、薪や炭といった燃料として使われていた。

江戸時代には、武藏国(現在の埼玉、東京、神奈川の一部)で江戸幕府がケヤキの苗の無料配布を実施し、それを雑木林として育成し、農業振興を図った。

安行でその武藏野の面影が見たいと思い、安行領家にある興禪院裏のふるさとの森に行ってみることにした。この森には、お目当てのケヤキもある。興禪院は、春先は、梅が咲き、初夏は新緑、初秋は彼岸花、晩秋は紅葉が楽しめる。また境内には、関東郡代として活躍した伊奈氏の重臣、富田氏の墓所もあり、見所満載である。

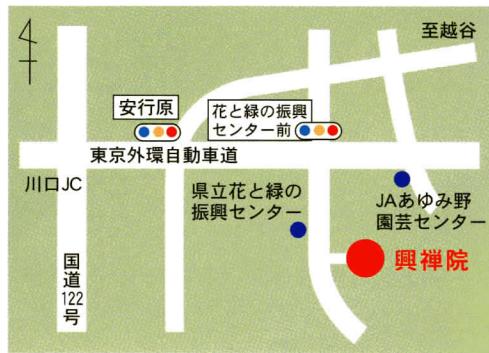
お寺を抜け、裏のふるさとの森へは、断崖となっているため階段が設けられていた。階段を下り森の中へ入っていく。森の中は外部の音が聞こえないほど静寂で、かすかに小さな泉が湧き出る水の音がしていた。泉の傍らには、弁財天が祀られ、一月、五月、九月には弁天祭りが行われているそうだ。

ケヤキが大きな姿を見せた。他の樹木と共に雑木林を構成していた。枝が覆い重なり上方を見上げるのに苦労した。葉はさわやかな緑色で、見つめていると何か癒される。ケヤキは日本を代表する木で関東地方に多い。また樹齢も長く、全国的にも天然記念物に指定されているものも多い。最近では、興禪院前の埼玉県花と緑の振興センターに植栽されている箒状の樹形をした“むさしの1号”が人気が高い。ケヤキの名前の由来は、木目が美しいことからケヤケキ(異木)で尊い、秀でたの意がある。他にカヨキ(香木)、キメアヤキ(木目綾木)の転訛など諸説がある。

その昔、武藏と呼ばれた埼玉にはこんな場所が希にあった。ケヤキが県の木に指定されるのも納得ができた。



むさしの1号（花と緑の振興センター）



ケヤキ Zelkova serrata Makino (ニレ科ケヤキ属)

- 別名：ツキ
- 分布：本州、四国、九州、台湾、朝鮮、中国
- 高さ：30m 幹周り3～6mぐらいになる落葉広葉高木
- 用途：公園樹 街路樹 屋敷林 神社境内など
- 陽樹
- 4月～5月に開花 生長はやや速い 萌芽力は大 強剪定に耐える
耐風力が強い 移植は容易 大気汚染、潮風、乾燥に弱い
- 樹冠は円形状 葉は互生し、長さ2～7cmの卵形または卵状披針形 雌雄同株
果実は長さ4～5mmの平たいゆがんだ球形で10月頃に黒褐色に熟す



興禅院ふるさとの森の保存樹木

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所 在	幹周	樹高
ケヤキ	ニレ科	H12.9.1	105	安行1228	2.8m	28.0m



推薦植物紹介

アオキ

- 学名：*Aucuba japonica Thunb.*
- 科・属：ミズキ科・アオキ属 常緑広葉低木
- 原産国：日本（特産種）
- 結実期：秋～翌年の4月まで
- 分布：宮城県以西（品種によっては北海道で植栽も可能）
- 植栽時期：3月～4月又は9月～10月（ポット苗はいつでも可能）
- 肥料：春と秋

アオキは高さ1m～3m程度になる雌雄異株（※1）の常緑性の低木で、光沢のある葉や幹・枝等がすべて緑色なのでこのような名前が付けられている。樹形は株立ちに生育しその後は自然と整った半円形になる。

花は3月～5月頃に咲くがあまり観賞価値はなく、秋～早春にかけて雌木（※2）に結果する深紅の実と光沢のある深緑の葉との組み合わせが美しい。変種には白や黄色の実を付ける品種や様々な斑入りの園芸品種があり、以外に種類が豊富である。

用途としては主に庭木や生け垣に良く利用され、また、耐陰性に優れる陰樹であり直射日光の当たらない湿った場所を好むため、半日陰地等へ植栽される事も多い。逆に真夏日差しが強いと特に斑入り品種などは葉焼けを起こす原因になる。

（※1）雌雄異株とは雄花と雌花が異なる株に生じるものであり、つまりアオキには雄木と雌木が存在すると言う事になる

（※2）雌木にのみ実が付き、雄木には実はありません（雌木であっても受粉をしないと実はありません）

《植栽時の利点》

- ① 樹形が自然と整うため手間があまり掛からない
- ② 移植が容易
- ③ 耐陰性があり半日陰や日陰地へ植栽が可能
- ④ 実や斑入り品種などは日陰地への見所を演出する
- ⑤ 年間を通じて緑葉を保つ



（写真1）アオキ（結実）



（写真2）外縁に斑が入る品種
品種名：スルフレア・マルギナータ



（写真3）散り斑の品種
品種名：スターダスト

祝

安全祈願

ナナカマド

バラ科 ナナカマド属

(落葉広葉樹・小高木・陽樹)

七回かまどに入れても燃えにくいので、この名が付いたという。火難を避けるとして、さまざまな安全祈願に植える。花言葉は「安全」。

秋の紅葉の美しさと、赤い実をたくさんつけて小鳥を呼び集めることから、庭木として主に北の地方で愛好されてきた。大きくなれば10mに達するものもある。



ナナカマド

1. 特徴

開花期5～6月、結実期9～11月。生長はややおそい。

2. 植えるときの注意

時期：3～4月

場所：やや日の当たる肥沃な土を好む。

3. 管理のポイント

あまりせん定せず、自然形に育てればよい。

《他の木》



サンゴジュ

常緑広葉樹
小高木・陰樹



ヒイラギ

常緑広葉樹・小高木
中庸樹・雌雄異株



モモ

落葉広葉樹
小高木・陽樹



ナンテン

常緑広葉樹
低木・中庸樹～陰樹



南天

ナンテンの歴史

ナンテンは、縁起植物とされ、松竹梅や千両、万両とともに正月に飾られる植物で、日本、中国、インドの暖帯地域に分布しています。恐らく中国大陆から渡来したとされています。日本の文献に登場するのは、鎌倉時代に入ってからです。

ナンテンは、難転と表され、“難が転ずる”とされ、戦国時代の武将が縁起をかつぎました。無事と戦勝を祈願して、出陣前、床の間にナンテンの枝を飾り鎧にナンテンの枝を差し、搗栗（搗は勝つという意味）を食べて戦場へ向かったと言われています。江戸時代には、“難が転ずる”だけでなく“難を転じて福を招く”というめでたい木になってしましました。これは、たいへん興味深いものです。江戸時代は、多くの火事があったが『和漢三才図会』にはナンテンを植えれば火事が避けられると記され多くの家でナンテンが植えられたといいます。また、火災だけでなく、盗人や悪魔よけにもなるとされ玄関前にも植えられるようになりました。ナンテンは前出の他に祝いの日に出される赤飯の上に食当たりを起こさないように、ナンテンの葉がのせられたり、また昔はトイレが外にあつたのでその周りにはナンテンが植えられていました。これは、用を足した後、水がなくてもナンテンの葉で手をぬぐうと水と同様、手を清めたことになると信じられていたことによります。

その他ナンテンの枝を持ち歩けば“中風にならない”“転ばない”ともいわれ、ナンテンで作った箸は食中毒を起こさないとされていました。また小児の病気除けの呪いにナンテンで作ったヒヨウタンや槌を体に着けていたといわれています。

現在は、お庭を彩る、ガーデニング樹木としても人気が高く、安行の植木売店でも簡単に手に入れることができます。



ナンテンの花



ナンテンの実

ガーデニング素材として

23

ナンテン *Nandina domestica Thunb.*

[科名] メギ科ナンテン属 常緑広葉低木

[原産地] 本州中南部以西の暖地 中国 インド

[開花期] 5月～6月

[利用の用途] 高木の下木 生け垣 鉢植えなど



おめでたいの代名詞として人気の素材です。日陰でも良く育ち、病害虫も少ないです。真っ赤な実をたくさんつけます。庭では脇役で、決して目立つ方ではありませんが、丈夫さが評価されています。実の白い“シロミナンテン”葉の赤い“オタフクナンテン”が最近では人気が高いです。

ナンテンの他の主な縁起植物

ここでは、ナンテンの他の主な縁起植物を紹介いたします。その理由は様々ですが、古くから縁起が良いとされ、重宝されてきたものになります。

(1) 松 [科名] マツ科 常緑針葉高木

[理由] 松は、1年を通して緑を保つので「長寿」の象徴とされていること。



(2) 竹 [科名] イネ科 多年生常緑草本植物

[理由] 竹は、真っ直ぐ勢いよく伸びることから、「成長力」や「出世」の象徴とされていること。



(3) 梅 [科名] バラ科 落葉広葉高木

[理由] 梅は、いち早く花を咲かせることから「生命力」の象徴とされていること。



(4) 千両 [科名] センリョウ科 常緑広葉低木

[理由] 実が葉の上につくことから、「上向き」の象徴とされていること。



(5) 万両 [科名] ヤブコウジ科 常緑広葉低木

[理由] 四季を通じてつやつやとした緑の葉を保ち、美しく、赤い実が晩秋から春までつくことから、商売が常に栄えるとされていること。





肥 料 (その2)

1. 肥料の3要素：植物の吸収量が多く、最も必要とする窒素、リン酸、カリの3成分

- ① 窒素 … 植物体の原形質(核と細胞質など)や葉緑素を構成するタンパク質の主要成分であり根や茎葉を成長させ、葉色を良くする事から「葉肥え(はごえ)」と呼ばれています。不足しますと生育不良などの症状が現れ、過剰に与えると病害虫にかかりやすくなり、花付きの減少や植物全体の徒長などの症状が発生します。
- ② リン酸 … 細胞核や生理上重要な酵素を構成する成分であり、開花・結実を促進する事から「実肥え(みごえ)」と呼ばれています。葉が紫色を呈し葉脈が黄化したり、花付きが悪くなる等はリン酸欠乏症の現れです。
- ③ カリ … 植物体内的生理作用を調整し、不良環境や病害虫に対する抵抗性を強化します。また、根の発育を促進する事から「根肥え(ねごえ)」とも呼ばれ、不足しますと根の生育が阻害されるため、葉が黄化しやがて枯死してしまいます。また、耐病性も低下します。過剰に与えると窒素、カルシウム、マグネシウムの吸収を妨げます。

2. 中量要素：肥料の3要素に次いで必要なカルシウム、イオウ、マグネシウムの3成分

- ① カルシウム … 細胞膜の構成成分であり、植物体を丈夫にします。
- ② イオウ … 根の発達や植物体内の様々な作用を助けます。
- ③ マグネシウム … 葉緑素の構成成分であり、リン酸の吸収や植物体内での移動に関係する成分です。

3. 微量要素：微量ながら植物の生育上必要不可欠とされている7成分

- ① マンガン … 光合成における二酸化炭素の固定に必要であり、また、葉緑素等の形成に関係する成分です。
- ② ホウ素 … タンパク質合成、細胞分裂に関係します。また、開花や種子の形成に関係します。
- ③ 銅 … タンパク質や炭水化物の代謝にとても大切な成分です。
- ④ 塩素 … でんぶんの合成や光合成に関係します。
- ⑤ モリブデン … タンパク質合成に関係し、各種の酸化酵素を構成する成分
- ⑥ 鉄 … 葉緑素の形成に関係します。
- ⑦ 亜鉛 … タンパク質合成や種子形成、成長速度に関係し、また、酸化還元酵素の活性化にも関係します。



ジュリアン 樹里安
川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」
発行日：平成20年2月1日
発行：財団法人 川口緑化センター
〒334-0058 川口市安行領家844-2
TEL 048-296-4021
ホームページ：<http://www.jurian.or.jp>